



釜石市 中妻地区
自主防災組織育成・活性化支援事例報告

釜石市・岩手大学地域防災研究センター

■中妻地区における目標・スケジュール

○課題と目標（釜石市計画書より）

- ・中妻地区は東日本大震災津波における大きな被害がなく、防災活動のきっかけがなかった。しかし、令和2年に日本海溝等の巨大地震による津波被害が生じる可能性が示されたことから、住民は危機感を持っている。
- ・国道よりも低い場所に住宅があることから、大雨の際には複数の町内会が冠水のおそれのある地域である。
- ・令和3年10月14日（木）に訓練を実施予定であり、訓練を通じて地域の課題を把握すること。
- ・課題の解決策を議論、実行していくため、自主防災組織を結成し、避難行動計画、避難ルートマップの作成などに取り組んでいくこと。

○スケジュール

2021年

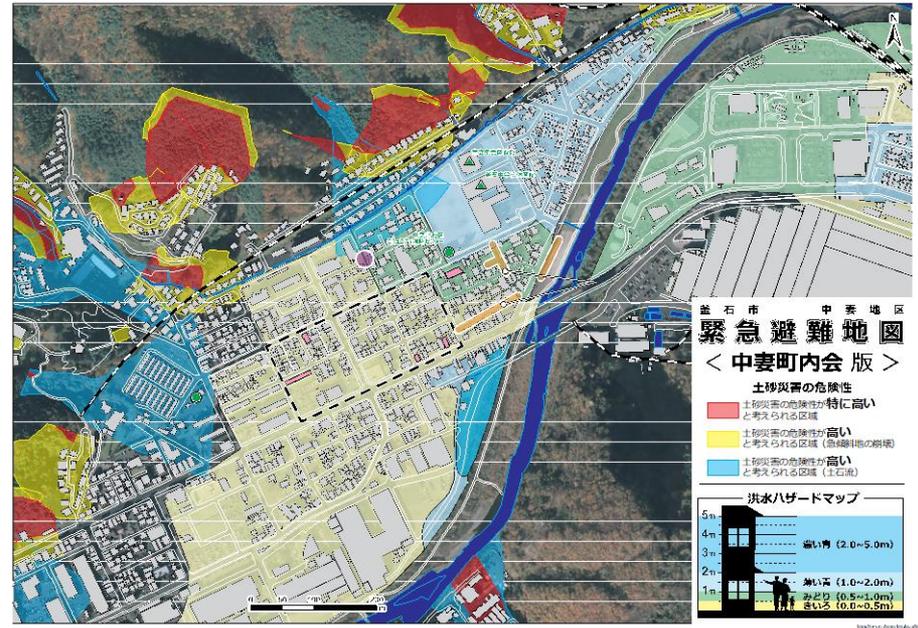
- 9/24：①第5回地区センター会議
☞避難訓練事項・役割分担の確認
- 10/14：②中妻地区津波避難訓練
☞訓練の記録・検証
- 11/28：③第6回地区センター会議
☞避難訓練の振り返り・検証結果の共有
- 12/24：④第7回地区センター会議
☞訓練後の各団体の活動共有

2021年

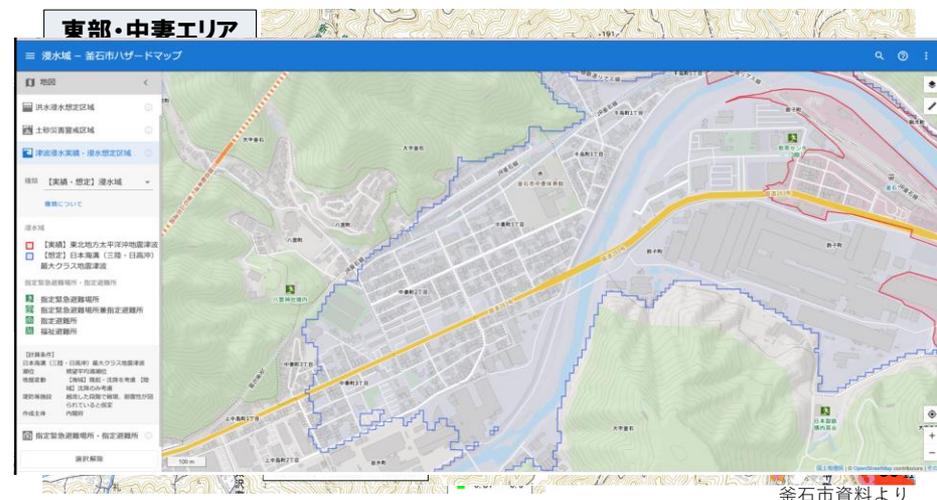
- 2/7：⑤釜石中学校での訓練調査報告への参加
- 3/17：⑥コアメンバーによる振り返りと次年度以降の取り組み協議

①対象地域の情報共有 担当者打合わせ

- ・ 令和2年に公表された千島・日本海溝地震による津波被害が新たに懸念される地域。
- ・ 東日本大震災では津波による被災はなかったため、住民は新たな浸水想定を気にかけている。
- ・ 地区内に4町内会があり、現在、自主防災組織を結成しているのは1町内会。
- ・ 地区内に「中妻地区生活応援センター」があり、町内会、学校、児童館、交番、社協等で構成される見守りネットワーク・地区センター会議の受け皿となっている。
- ・ 平成25年に、市の防災事業で住民協働による洪水・土砂災害危険区域緊急避難地図を作成している。おり、令和元年台風19号でも浸水被害を生じている。



釜石市洪水・土砂災害緊急避難地図 中妻町内会版を加筆修正



住民周知チラシ

津波避難訓練のお知らせ
 中妻地区の一部が津波による
 浸水想定区域となっています。

昨年10月5日（月）の住民説明会及び10月27日（火）の市政懇談会において、「日本海溝沿いの最大クラスの津波による浸水想定について」の説明があり、防潮堤が機能しなかった場合（津波が越えた段階で防波堤が破壊される）に中妻地区の一部が浸水する想定となったことから、地域での津波避難訓練を実施することといたしました。
 つきましては、津波避難訓練への参加協力をお願いいたします。

1 実施する津波避難訓練の概要

- 日時：令和3年10月14日（木）14：40～15：25
- 対象地区：中妻地区地域会議を構成する地区
- 想定：日本海溝沿いでマグニチュード9.1の地震が発生。釜石では震度6弱の揺れを観測。地震発生から3分後に気象庁から大津波警報が発表された。≪津波到達予想時間を地震発生から15分後と想定≫
- 訓練内容：防災無線の訓練実施アナウンスにより次の行動等を行うもの。
 - ①その時いる場所で大きな地震が発生したと想定して「身を守る行動」をとる。
 - ②近くの津波災害緊急避難場所や高台など、危険を回避できる場所への避難訓練をする。
 - ③避難開始までの手順や緊急持ち出し物品などの確認をする。

2 参考

●津波災害の緊急避難場所

緊急避難場所	対象地域
八雲神社境内	中妻町、千島町

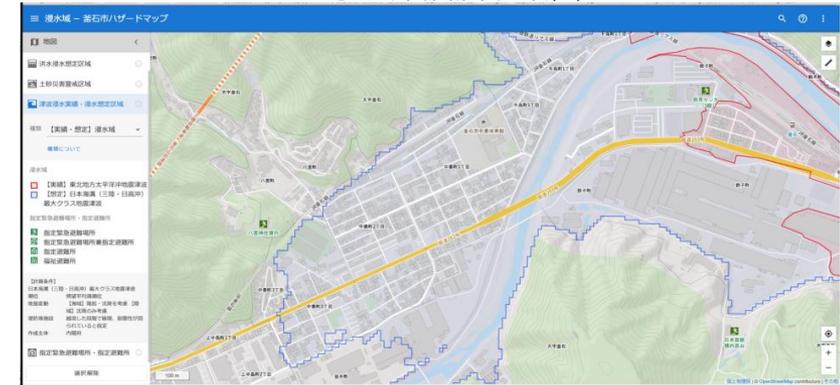


問い合わせ：中妻地区地域会議事務局（23-5543）



町内会配布資料より

想定津波浸水域図



町内会配布資料より

①避難訓練事項・役割分担の確認

- ・ 第5回中妻地区センター会議にて、10月に行われるセンター会議主催の津波避難訓練に関する実施要領、役割分担、注意点等の確認が行われた。
- ・ 正式にはこの会議から、岩手県モデル事業としての支援が開始となった。

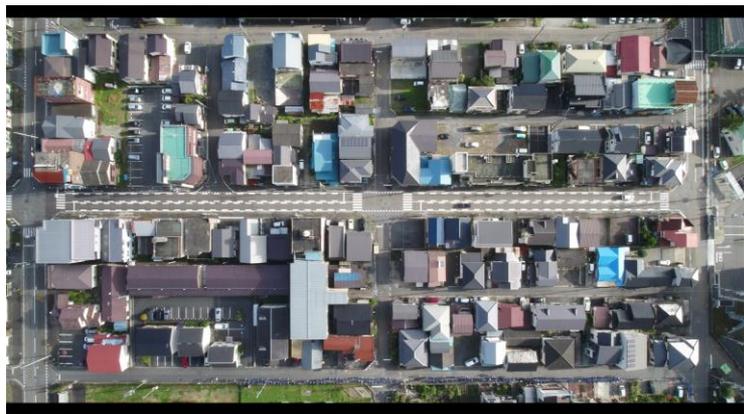
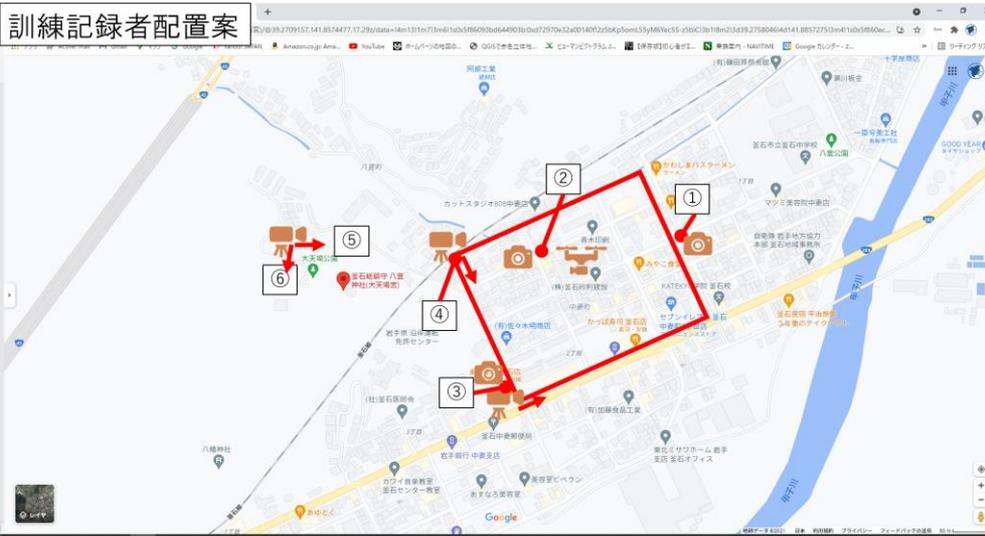
【地区センター会議での確認事項】

- ・ 参加機関：中妻生活応援センターほか、学校、児童館、交番等12機関
- ・ 参加人数：14名
- ・ 確認事項：訓練通知文
 訓練実施要領
 周知文案（チラシ）
 各団体行動図案
 想定津波浸水域図面
 訓練アンケート用紙

②中妻地区津波避難訓練の実施

【訓練の実施】

2021年10月14日（木）
 14:40～15:25（日本海溝M9.1地震想定）
 緊急避難場所：八雲神社（大天場）
 ・参加機関数11+4町内会
 参加者数：710人



訓練記録者（地上）

氏名	配置（案）	機材	所属	備考
熊谷 誠	①	カメラ	岩手大	
塚本 清孝	③（仮）	カメラ	防災サポーター	
中村 順哉	④	ビデオカメラ	盛岡消防	
南野 光稀	⑤、⑥	ビデオカメラ	県大OB	
高橋 翔	②	カメラ持参	岩手県庁	
吉田 凌	③（仮）	カメラ持参	岩手県庁	

※配置と機材担当は調整中
 ①釜石中西側道路交差点
 ②協会支部西側交差点
 ③283号線交差点丸松付近
 283方向と八雲神社方向の2方
 向対応必要かも。。。
 ④八雲神社登り口
 ⑤八雲神社付近
 ⑥大天場付近



③避難訓練の振り返り・検証結果の共有

・第6回中妻地区センター会議で各機関からの振り返り報告を行った。また、岩手大学より避難訓練の記録写真・映像からの検証結果を報告した。

以下、挙げられた主な課題

- ・ 防災行政無線が聞こえない
 - ・ (各地区から) 避難場所や避難経路の見直しが必要
 - ・ 避難路上の危険箇所、急勾配箇所などの安全確認や代替路の検討
 - ・ 荒天時を想定した避難場所の確保
 - ・ 高齢者の地震時対応がとられていない
 - ・ 避難経路上の狭隘部での安全、円滑な移動
 - ・ 国道283を横断する避難は時間がかかるので、避難先の検討が必要
- ☞ これらの結果を踏まえて、次回以降の会議で今後の訓練の取扱いを協議することが確認された。



大天場グラウンド前ビデオ16.04~
 踏切前8.35~、10.36~

The map displays a disaster simulation for Iwaki City. It features several key elements: a legend on the left side with categories like '洪水浸水想定区域' (Flood inundation simulation area) and '津波浸水実績・浸水想定区域' (Tsunami inundation actual results and simulation area); a main map area with various colored overlays representing different simulation scenarios; and several callout boxes with text explaining specific observations and concerns. The map also shows street names, building footprints, and geographical features like the coast and rivers.

踏切や参道など、ボトルネックの形状のため人流が停滞、集中しやすいか。歩車の混在があるとさらに滞留する可能性も。

地区内で津波浸水域からの脱出、垂直避難のどちらも距離があり、早期の避難の判断、行動が必要か。

国道283号線南側の地域は、283号線を横断する際の信号待ちなどで貴重な避難時間を消費する可能性がある。

浸水想定範囲の周辺がいちばん油断しやすく被災しやすい。浸水範囲を出ても、さらに高いところへ移動できる余地のある場所を避難場所を選ぶ工夫を。

上記のほか、障がいや体力の問題などで避難に支援や車を必要とする人の避難をどう支えていくか考えるためにも比較的検討しやすい自力避難可能な人たちの避難について考えを積み重ねることが必要。

④訓練後の各団体の活動の共有

- ・ 第6回会議の訓練振返りを踏まえて、第7回会議（12月24日）では各団体から訓練内容への意見や今後の継続について諮る場が設けられた。
- ・ 年末の時期、コロナ感染の影響などから学校関係者、民生児童委員などの欠席があり、実際の協議、決定は次回以降に持ち越しとなった。



この後、7回目会議以降の1月、2月の会議はコロナ感染症の拡大により中止となった。2月の会議に代わる書面決議によって右記の通り、次年度以降の訓練継続が決定された。

センター会議書面決議

- 1 津波避難訓練の継続について
引き続き年に1回程度の津波避難訓練を継続していく。
- 2 実施時期について
9月の防災週間での実施
- 3 今後の推進体制について
センター会議では種々の地域課題を取り上げる必要もあり、今年度をもって津波避難訓練に関しては終了したい。今後は、地域会議の案件として実施していく。



この決議によりセンター会議案件から地域会議の案件となったことで地域会議の議長、センター事務局のもとで毎年度、訓練企画案を検討し、訓練を実施していくこととなった。

→訓練行事の定着化がなされた。

⑤釜石中学校での訓練検証報告への参加

- ・避難訓練に参加した釜石中学校第2学年の総合の学習の時間を利用して訓練内容の振り返り、検証に取り組んだ。

以下、主な検証項目

- ・校内：地震時の校内の危険箇所
避難経路（幅や距離）
校舎外までの移動時間
各階の高さ（実測）
- ・校外：避難経路（幅や距離）
通行上の注意点）
避難場所までの移動時間（集団）
経路上の危険箇所
避難場所での危険箇所 etc

- ・検証結果の発表会に、地域会議議長、センター所長、市防災担当者など地域会議の中核を担うメンバーに参加してもらい情報共有を行った。

→学校全体での検証結果を有志の生徒が取りまとめ、
新年度の地域会議での共有を予定している。



⑥コアメンバー（仮）による振返りと 次年度以降の取り組み協議

- ・ 第7回会議（12月24日）以降、釜石市域でも、コロナ感染症の拡大により、センター会議が開催できずにいた。
- ・ その中で、前記したとおり、津波避難訓練の地域会議案件として行事化する書面決議が行われ、決定している。
- ・ これを受けて、次年度以降の津波避難訓練を実施していくうえでのスケジュールや、各機関の役割分担、取り組み内容等について地域会議議長、事務局を務める地区生活応援センター所長および生活支援コーディネーターらと協議、情報共有を行った。



現段階では、事務局からの行程案（次ページ掲載）に釜石中学校からの訓練検証結果を踏まえて、訓練案の修正を加え、次年度の訓練を企画していくことが確認された。

中妻町地区津波防災訓練行程表（案）

今後の取組み予定

月	取組む内容	役割等
3月	次年度行程表（案）の提案・協議	応援センター・社協SC
4月	関係機関 あいさつ回り	応援センター・社協SC
5月		
6月	地域会議 津波防災訓練実施に向けて 開催概要の検討（実施日時、周知範囲など）	
7月	周知活動、関係機関・団体への参加協力依頼	応援センター・社協SC
8月	周知活動、関係機関・団体の参加予定の取りまとめ 防災訓練の役割分担の確認	応援センター・社協SC
9月	（第1週・防災週間）中妻地区津波防災訓練	地域会議・関係機関
10月	津波防災訓練 振り返り	
11月		
12月	地域会議（津波防災訓練振り返り・次年度に向けて）	地域会議・応援センター
1月		
2月		
3月		

※シェイクアウト等の
訓練参加時の注意事項も周知

■中妻地区における 成果と課題（今後の目標も）

【成 果】

- ・ 地域会議が主催して避難訓練を行うことで地域全体、事業所、関連機関を巻き込んだ訓練が実施でき、津波災害のリスク周知につながった。
- ・ 訓練実施の成果と反省点を得ることで訓練の必要性を認識し、継続実施していく決定につながった。
- ・ 訓練内容の具体的な検証に、中学校の防災学習の機会を利用することで、学校側から地域側への検証結果の共有の場が生じ、地域側もより具体的な訓練の検討材料を得ることができた。
- ☞ 事務局体制が、町内会取り組みをサポートする体制となっており、会議、行事等の円滑な活動につながっていた。

【課 題（今後の目標）】

- ・ 訓練振り返り、中学校からの検証結果にもとづいた訓練内容の見直し、実際の津波避難対策への反映やその検討を進める必要がある。
- ・ 自主防災組織未結成の町内会への自主防災組織結成意向の再確認
☞ 結成の意向が少し芽生えている模様。。。
- ・ 地域会議、センター、防災担当者等の異動にも耐えうる、避難訓練、防災対策の取り組み体制の模索。→次年度の支援体制案も協議済み。